

毛髪診断の目的

1、脱毛の原因、頭皮の異常を観察して診断 (脱毛・頭部湿疹・脂漏性皮膚炎・あるいはフケ症)

お客様は理容師を毛髪の専門家とみて、本人(自分)のことばかりでなく家族や知人の毛髪についても相談する

2、パーマ・ヘアダイ・ブリーチなどの施術による事故の防止 (毛髪診断と施術は密接な関係)

毛髪診断の結果を基に製品を選択し、使用時間、プレトリートメント剤の使用など施術全般に配慮し、毛の損傷をできるだけ防ぎ、美しく仕上げる努力をしなければなりません

3、施術による事故が発生した時の観察・診断 (切れ毛・抜け毛・接触皮膚炎)

損害賠償に絡む問題。サロン技術が原因か？病気が原因か？

4、脱毛の相談目的 (脱毛の原因と処置)

専門家のアドバイスが聞きたい

第1に発症の時期と経過、進行と現在の状況の把握、第2に毛根像の観察

- ①年齢
男性の若ハゲ、高齢化に伴う薄毛、女性の更年期による男性型脱毛症
早ければ10代後半にその徴候がみられる
- ②性別
男性特有、女性特有の脱毛症がある 男性特有は男性型脱毛症(若ハゲ)
女性特有は生理的なもので分娩後脱毛、ピル、ダイエットなどで無月経となり脱毛する
- ③家族歴
男性型脱毛症のように同じ家系に同じ症状を発症
円形脱毛症も稀ではあるが、無いとはいえない
- ④いつ、どのように発症したか
前ぶれなく突然の場合、徐々に抜ける場合、サロン技術による断毛
円形脱毛症・ダイエット栄養不足・パーマ、ヘアダイ(2~4週間で抜け毛が増える)など抜け方が違う
- ⑤その後の経過
徐々に進行、ほとんど変化なし、2週間くらいで成長
パーマによる断毛と推定することができる
- ⑥現在の状況(脱毛部位、その状態、進行の状態、毛の再生状態)
発症時の状態で、限局性、びまん性など症状は千差万別
男性型は前頭部から、梅毒は後頭、側頭部から、バセドウ氏病は後頭部に脱毛が見られる
- ⑦毛の太さ、長さ
脱毛症、断毛の区別
抜けてきた毛の中に細くて短い毛がたくさん混じる(男性型脱毛症)、全体的に毛が細い(貧血性、蛋白血症)
- ⑧頭皮の状態(かゆみ、発赤、フケ、脂漏、浮腫など)
頭皮の異常は、多くの場合脱毛につながります
とくに見られるのは異常な痒みや発疹→脂漏性皮膚炎や男性型脱毛症は脂漏に傾く
- ⑨頭部以外の観察
頭部だけでなく身体他の部を観察することで症状の区別
脂漏性脱毛の場合、顔面の脂漏性皮膚炎の発生部位、特に眉間、両側の頬が赤くなる
- ⑩6ヶ月以内の分娩の有無
分娩、ピル服用後にも脱毛する場合があります
ダイエット→皮膚の乾燥が起こりやすい、膠原病など全身状態が悪化
- ⑪薬剤服用の状況
約179種に及ぶ医薬品による脱毛症の報告があります
抗がん剤、抗血漿凝固剤、性ホルモン剤、ステロイド剤、高脂血症剤、ビタミンA製剤、インターフェロン製剤
抗パーキンソン病剤、抗リウマチ剤、免疫抑制剤など
- ⑫栄養、食事の状態(断食、ダイエットをしていないか)
極端なダイエット(貧血、低たんぱく血症)が続くと脱毛を起こしやすい
毛髪の直径を測定してみる。ダイエット女性 0.05~0.06化
- ⑬健康状態の良し悪し
健康であることが美しい髪を育てるのに欠かせません
身体がだるい。汗をかきやすい、皮膚が乾燥状態、痩せる、脈が速い、発熱、皮膚に発疹
- ⑭精神的ストレスの有無
精神と肉体は深い関係があります(円形脱毛症、トリコチロマニア)心因性
家庭内で個室をもてることが多い
- ⑮外因性脱毛の疑いの有無
牽引性脱毛症、圧迫性脱毛症、トリコチロマニア、カラー剤による接触皮膚炎
本人は意外に自覚していない

これらの調査項目について質問し、脱毛や頭皮の状態をよく観察して、毛根像の観察結果とあわせ、毛の太さ、強度なども測定して、これらをまとめて脱毛原因を判定するように心がけてください